

洋ラン栽培の基礎知識(その1)

ランのふるさと

ランは南北極地周辺、高山、砂漠を除く広い地域に分布しています。中でも、アジア、アメリカ、アフリカの熱帯雨林地域は多くの種が分布し、3大自生地となっています。

冬の最低温度と原産地、ランの種類

ランの生育には冬の最低温度が深くかかっています。最低温度の程度によって栽培できるランの種類が決まります。また、熱帯原産であっても、標高の高いところ(1,000m以上)に分布する種類は、夏の暑さ対策が必要となります。

栽培場所 (冬の最低温度)	主な分布域	種類(下線を引いたものは夏に暑がる種類)
高温室 (最低15~18℃)	熱帯低地	エリデス、カトレヤ(ブラジル原産種)、デンドロビウム(ファレノプシス系)、バンダ、ファレノプシスなど
中温室 (最低11~13℃)	熱帯中間地 ~亜熱帯	アングレカム、落葉性カランセ、エランギス、オドントグロッセム、オンシディウム、カトレヤ、 <u>デイサ</u> 、 <u>デンドロビウム</u> (ニューギニア高地種)、 <u>パフィオペディルム</u> (斑入り葉、大型多花系)、 <u>バンダ</u> (セルレア系)、 <u>フラグミペディウム</u> 、 <u>マスペリア</u> 、 <u>ミルトニア</u> 、 <u>リカステ</u> など
低温室 (最低8~10℃)	熱帯高地 ~亜熱帯	シンピディウム、ジゴベタルム、セロジネ、デンドロキルム、デンドロビウム(ノビル系)、 <u>パフィオペディルム</u> (緑葉系)、 <u>マキシラリア</u> など
無加温~戸外	暖帯~寒帯	アツモリソウ、ウチオウラン、エビネ、クマガイソウ、サギソウ、シュンラン、シラン、セッコク、ツニア、ネジバナ、ハクサンチドリ、フウラン、ミヤマウスラなど

ランの好む光の強さ

木の枝の先端や岩の上、湿地に生えるものは強光を好み、森林の林床や木の幹や枝の中ほどに生えるものは弱光を好む傾向があります。

性質	ランの種類	遮光率		
		春・秋	夏	冬
日照を好む	サギソウ、シラン、セッコク、デンドロビウム、バンダ、リンコステイリスなど	0% (直射日光)	0~30%	0%
中程度	エピデンドルム、オンシディウム、カトレヤ、ジゴベタルム、シンピディウム、ミルトニア、リカステ、レリアなど	30% (落葉樹の下など)	50~60%	0%
弱光を好む	エビネ、カンラン、パフィオペディルム、バルボフィルム、フラグミペディウムなど	50% (常緑樹の下など)	70~80%	30%

水やり

原則として鉢の表面が乾いてから行います。冬に適温を保てない場合には乾燥気味に管理します。

通風

ランの栽培にとって風は大切です。生育や花付きをよくし、花もちもよくなります。病気や害虫の被害も少なくなります。

戸外ではゆるやかな風が通り抜けるところに置きます。温室では換気扇や扇風機で室内の空気をかくはんすると効果的です。



洋ラン栽培の基礎知識(2)

肥料

置き肥 生育初期から中期にかけて、植物体を大きく育てる目的で施します。チッ素(N)、リン酸(P)、カリ(K)の三要素を含みチッ素分がやや多く含まれているものが効果的です。緩効性の化成肥料や、発酵油かすの固形肥料などが適します。

液肥 肥料を早く効かせたいとき、肥料を長続きさせたくないときに使います。ランの生育段階にあわせ、生育期(一般に春～夏)にはチッ素分の多いものを、成熟期(一般に秋)にはリン酸、カリ分を多く含むものを使います。

植え替え

時期 植込み材料が古くなり水はけが悪くなった、株が鉢いっぱいになり茂り育つ余地がなくなった、株の生育が悪くなったとき。

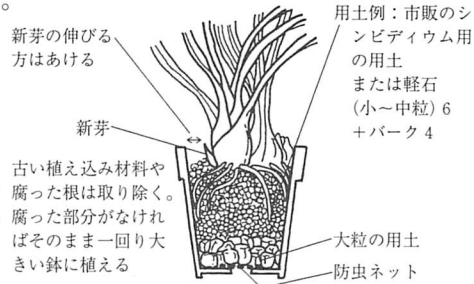
新芽から根が伸長する直前が適期です。

植込み材料 着生ランでは水苔やヘゴ、コルク板等を、地生ランでは水苔や地生ラン用の配合土(軽石やバーク等を混ぜたもの)を使います。

植木鉢 着生ランでは素焼き鉢やラン用のバスケット等を、地生ランではプラスチック鉢や駄温鉢を使います。

植え方 排水よく植えることが大切で、水苔は繊維を縦に使います。

植え替え後2週間ほどは風の当たらない半日陰に置き、その間水やりは葉に霧吹きをする程度にとどめ、植込み材料を乾かし気味に管理します。



シンビディウムの植え付け



デンドロビウムの植え付け

ふやし方

株分け 新芽とバックバルブ2～3本つけたものを1株として切り分けます。(カトレヤ、シンビディウム、デンドロビウムなど複茎性のラン)

バックバルブ伏せ 株分け時に切り離れた古いバルブを水苔などに包んで植えておくと新芽が出てくることがあります。

高芽とり バルブの高い位置にある節や花茎から発生した新芽(高芽)の根が3～4本、長さ3～4cm程度に伸びたらかき取り、植え付けます。(エビデンドルムのラディカンス系やデンドロビウム、ファレノプシスなど)

茎ざし バルブを水苔に挿したり、横に伏せたりしておくとバルブの節から新芽が出てくることがあります。(エビデンドルムのラディカンス系やデンドロビウムなど)

実生 種子を親株の根元にまき、苗を得ることができます。(エビネ、シラン、パフィオペディルムなどの地生ラン)

